

セキュリティー
管理性

コロナ禍のエッセンシャル・ワークで求められる PC の性能とは？ 名古屋市療養サービス事業団がインテル® vPro® プラットフォームを選んだ理由

ネットワークの負荷、管理のしやすさ、 セキュリティー性能、あらゆる面で業務効率を改善

目次

Zoomによる通信量増や 在宅PCの管理が問題に ……………	1
驚くほど簡単だった インテル® vPro® プラットフォーム 管理ツールのセットアップ、 あっさりファイアウォール越え ………	2
セキュリティー強化や トラフィック削減にも役立つ インテル® vPro® プラットフォーム！ …	3



名古屋市療養サービス事業団 IT 統括本部主幹の篠田和紀氏



「名古屋市療養サービス事業団」では、バックオフィスで「インテル® vPro® プラットフォーム」に対応したマシンを採用

テレワークの普及にともない、各企業におけるシステム管理者への負荷が増えています。多くの現場では、会社のノートブック PC を社員が自宅に持ち帰って仕事をしているが、そのマシンの管理に苦労しているようです。

訪問看護事業や居宅介護支援事業などでは国内有数の規模を誇る「名古屋市療養サービス事業団」もその1つ。その対策として事業団ではバックオフィスで利用している PC について、「インテル® vPro® プラットフォーム」を搭載したマシンへのリプレースを進めています。なぜ、このような計画を進めているのか、IT 統括本部主幹の篠田和紀氏に話を伺いました。

Zoom による通信量増や在宅 PC の管理が問題に

名古屋市療養サービス事業団では、市内に 13 か所の訪問看護ステーション、9 か所のケアマネージメントセンター、5 か所の地域包括支援センター、さらに、まちかど保健室や認知症カフェなどを展開しています。従来の業務の流れとしては、所属する看護師が居宅を訪ねて看護を行い、訪問後は拠点に戻って看護記録を作成していました。

しかし、新型コロナが拡大したことで状況が一変。職場内クラスターの発生を防ぐために看護師は拠点に戻さず、直行直帰で業務を行うようにしました。そこで問題になったのが、これまで頻繁に行われてきた打合せや会議の Zoom 化です。

というのも、事業団ではセキュリティー対策として、各拠点
がインターネットを利用する際には、一度本部のルーターを
経由するネットワーク構成になっています。この状況でZoom
によるトラフィックが急増すると、本部のルーターに負荷が
かかり、輻輳（処理待ち）が発生する事態となってしまっ
たのです。



支給された PC は、一度本部のルーターを経由してインターネットにア
クセスしています

さらに、管理職やケアプランを立てるケアマネージャー、総
務や経理の各担当者などは、これまで拠点に出社して仕事を
していましたが、緊急事態宣言が発令されるようになると、
テレワークへの移行を余儀なくされました。その結果、新た
にテレワーク用に用意したノートブックPCを自宅に持ち帰る
ようになりますが、その1台1台をシステム管理者が制御する
のは容易ではありません。

「特にWindows Updateが行われる第2水曜日には、トラフィック
が急増することで、メールの遅配などが起きていました。そ
のバッチがテレワーク中のPCに正しく反映されているかを把
握するためにも、何らかの形でシステム管理者がアップデー
トを制御する必要があったんです」（篠田氏）

そこで、篠田氏が目を付けたのが、インテル® vPro® プラットフォーム
の優れたリモート管理機能です。事業団では各拠点で利用し
ているPCのリプレースを2022年に予定していましたが、そ
こでインテル® vPro® プラットフォームを搭載したノートブック
PCである、DELL「Latitude 7320」の導入を進めることに。一部
ではその運用が始まっており、すでに問題の解決に向けて動き出
しています。

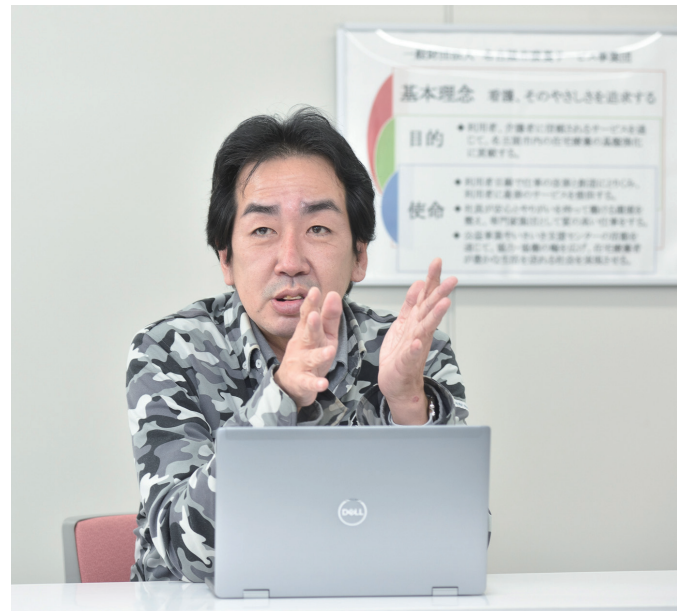
驚くほど簡単だった インテル® vPro® プラットフォーム管理ツールの セットアップ、あっさりファイアウォール越え

インテル® vPro® プラットフォームの活用法で、まず篠田氏が
考えているのが、業務時間外におけるWindows Updateの実
行です。

すでに事業団に導入されているリプレース済みのPCについて、
篠田氏は「インテル® エンドポイント・マネジメント・アシスタント
（インテル® EMA）」を使ってリモートでの管理を行っています。
これは、インテルが提供している端末の管理支援ツールで、
インテル® vPro® プラットフォームを搭載したPCを、例えば電源
が入っていない状態であってもリモートで起動することが可
能。リモート・デスクトップ機能もあるので、これを使って職員
がPCでの業務を行っていない時間帯に、Windows Updateを
実行してしまおうというわけです。

インテル® vPro® プラットフォーム搭載マシンの運用はすでに
始まっていますが、篠田氏によるとインテル® EMAを導入して
みたところ、まずはセットアップの手軽さに驚いたとのこと。
サーバーなどの準備を済ませたら、あとは管理対象のPCに
ソフトウェア・エージェントをインストールするだけなので、
「あっさりファイアウォールを越えて通信できたのに驚い
た」（篠田氏）そうです。

ちなみに、現在は篠田氏が1台1台のPCをリモート・デスクト
ップで操作していますが、将来的にはWindowsアップデートの
専用ツールを導入する予定。これならスケジュールに合わせて
アップデートを自動で確認し、適用後にPCをシャットダウン
させられるので、篠田氏が一切操作をしなくてもWindowsを
最新の状態に保てるようになります。



バックオフィスでの「インテル® vPro® プラットフォーム」の活用法に
ついて語る篠田氏

「手軽にリモート・デスクトップが使えるようになったので、
不具合報告があった時などには、“本当に故障が発生してい
るのか”をすぐに確認できるようになりました。BIOSの遠隔操
作もできるので、実際に現場まで行かなくても、かなりの部
分までのフォローが可能になると思います」（篠田氏）

これまでは、PCの不具合連絡があるたびに、システム管理者
が交換用PCを現地に持ち込み、状況確認してPCを交換。不具
合のあるPCを持ち帰って、修理対応などを行っていました。

しかし、今後インテル® vPro® プラットフォーム搭載PCへのリプ
レースが進めば、システム管理者の負荷は大きく削減できる
ようになります。

セキュリティ強化やトラフィック削減にも役立つインテル® vPro® プラットフォーム!

今回のPCのリプレイスは、アップデートや故障対応以外のシーンにも役立っています。その1つがセキュリティの強化です。

例えば、PCがシャットダウンされていても、簡単に遠隔操作できるインテル® vPro® プラットフォームを使えば、PCのコンプライアンスが守られているかを随時チェックできます。また、仮にウイルス感染があったとして、OSからネットワークを切断しても、インテル® vPro® プラットフォームによるコントロール（リモート・デスクトップを含む）はそのまま可能。つまり、ウイルスが外に漏れるのを防ぎながらも、遠隔操作でPCをメンテナンスできる、というわけです。

そもそもの話としてインテル® vPro® プラットフォームでは、ファームウェア・レベルで脆弱性への対策が行われており、これらを合わせて、強力なセキュリティを実現しています。

さらに、今回の名古屋市療養サービス事業団のケースでは、PCのリプレイスがネットワーク輻輳の改善にも役立ちそうです。その理由が、インテル® vPro® プラットフォームを搭載したPCには、高性能なCPUを採用しているマシンが多いこと。今回、新たに事業団でリプレイスしたDELL「Latitude 7320」も、高圧縮な「AV1」フォーマットへのハードウェア・デコードに対応した、第11世代インテル® Core™ vPro® プロセッサが採用されているため、Zoomの利用におけるデータ転送量の削減が期待できそうです。

コロナ禍によって働き方改革が注目されていることを考えると、この状況を一過性のこととは考えずに、何らかの対策を行っておくべきでしょう。「インテル® vPro® プラットフォーム」はその選択肢として、さまざまな現場で役に立ってくれそうです。



支給した PC に何か不具合があっても、リモートでの対応が可能



インテル®テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。

すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるコンピューター・システム、製品、コンポーネントはありません。一部のインテル® Core™ プロセッサ・ファミリーで利用できる内蔵セキュリティ機能を使用するには、対応するハードウェアやソフトウェア、サービスの有効化、インターネットへの接続が必要となる場合があります。結果は、システム構成によって異なります。詳細については、各 PC メーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<https://www.intel.co.jp/vPro> を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

INTERNET Watch (2021 年 12 月 24 日) に掲載されたコンテンツから抜粋し、再構成したものです。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1

<https://www.intel.co.jp/>

©2022 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2022 年 1 月

349858-001JA

JPN/2201/PDF/TMRB/CCG/NM